

読者からの寄稿 <ミスターEのアメリカエレベーター情報>

## 第7回「アメリカンエレベーター病」前編

こんにちは、ミスターEです。今回は主にアメリカに行った時、またはアメリカのエレベーター業界にいるとかがかかってしまう病気を取り上げます。「はは〜ん、エレベーターを見るたびに、どこのメーカーか？と思う職業病のことだな。」とお思いでしょうか？裏をかいてそれは取り上げません。さてこれから紹介する7つのエレベーターにまつわる病気、日本の業界のあなたはいくつかかりそうですか？

### 1. エレベーター安全注意欠如障害

NAESA（全米エレベーター安全局）の常任理事であるボブ・シェパードさん（写真1）が命名したエレベーター関係者がかかるといふ病気（障害）です。Elevator Safety Attention Deficit Disorder略してESADD（イーサッド）。頭のE（エレベーター）と最後のD（病気）の間にSAD（悲しい）が入り込んでいます。



写真1 NEASA 常任理事 ボブ・シェパードさん

エレベーターメンテナンス、検査中でも容赦なくやってくる電話やメール。私たちの生活から携帯電話やスマートフォンは切っても切れない存在になっていますが、本来は便利になった分、時間に余裕を生みだすものだったはず。なのに、応答や返信をしなければならない

プレッシャーにさらされ、時には作業への集中を奪う「気がかりを運ぶ道具」にもなっています。私もエレベーター検査中に携帯電話に出たあと、検査道具を忘れてかご上に乗ったりして、時間を失うことがあります。

「安全が最も大事」と常に呼びかけるボブさんが、エレベーター業界で働く人たちに警鐘を鳴らす意味でつけたのがこの病名です。電話やメールに応答中、昇降路のドアが開いたままになっていませんか？電気配線が外れたままになっていませんか？その文明の利器は一步間違えば、重大な結果をもたらす恐ろしいものでもあります。「悲しい」ことにならないよう気をつけましょう。

私はほとんどいつでも、かかってきた携帯電話に、すぐに出ることが許される風潮が不思議です。相手の都合を知らずにかけてきた電話が優先され、そのほかの多くの人たちの時間が奪われる。誰も口には出さないけど、心の中でムツとしているんじゃないでしょうか。

また、スマートフォンを仕事中に操作することも、市民権を得ているかもしれません。調べ物をするのは仕事のクオリティをあげるために許されるのでしょう。しかし、その中のいくつかは、家庭の最強ボスからの「帰りに醤油を買ってきてなさい！」指令に応答をしているのかも…。内容が表に出ないからわからないものの、スマホが普及してから、誰もが真顔で演技する「俳優 女優病」にかかっているかもしれませんね。

### 2. 巨大国土症候群

日本でも山奥のダムに数時間かけて、メンテナンスに行く方たちがいらっしやると聞いています。アメリカは国土が広大なので、もっと移動に時間がかかります。たとえばフロリダ州にいる検査官は、片道9時間かけて隣の隣にある州、ルイジアナ州まで1人で自動車を運転。1

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカエレベーター情報>>

台のエレベーターの検査に行くことがあるそうです。帰りも9時間。それでも日帰りですって。

遠くへ行くパターンでは、カリフォルニア州のサンディエゴからコロラド州などがあります。当然航空機を利用します。ハワイの人手が足りない時期には、東海岸のワシントンDCから応援に行ったことがあるそうです(イラスト1)。航空機に直行便はなく、家から現場までの移動はおよそ14~16時間。それでもまだ国内です。

グアムの検査官の手が足りなくなった時は、フロリダ州の検査官のひとりが、ロサンゼルスとホノルルで飛行機を2回乗り継ぎ、まる24時間かけて検査に行ったそうです。その人はエコノミークラスの狭い席に耐え切れず、自腹で広い席にアップグレード。「出張手当も軽く飛んで行ったよ。」と言って笑っていました。さらに彼らはキューバ、バハマ、プエルトリコなど外国にも検査に行きます。パスポートを忘れたら入国できず、帰るだけです。

アメリカは国の中に最大6時間の時差があり、東西に移動すると時差ボケします。時差ボケが治った直後に帰るスケジュールだと、体内時計は狂っぱなしです。検査の所要時間に比べた移動時間の長さは、国土が広いゆえにどうしようもありません。体調管理に努めないと本物の病気になってしまいます。

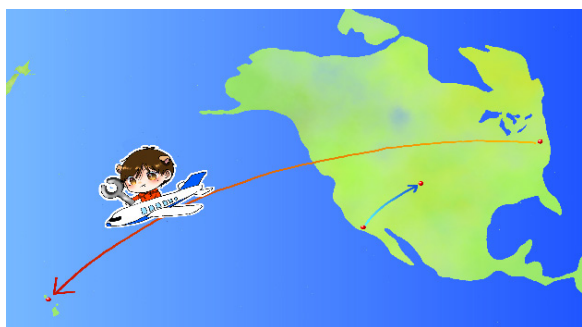


イラスト1 航空機で検査に向かうイメージ

3. エレベーターエキスポ物欲症

アメリカでは毎年場所を変えながら、エレベーターエキスポという展覧会が9月の中ごろ、2日間開催されています。日本で言うと日本エレベーター協会さんにあたる

NAEC(全米エレベーター協会と訳させていただきます)の主催で、巨大な国際会議場を借りて行われています。200社くらいのエレベーター関連企業がそれぞれブースを設置して、展示や商談などを行います。

特色のある会社は、エレベーターの運転プログラムを開発 販売する会社、貨物エレベーターのドアメーカー、パルプ専門メーカー、パネルやボタンや 銘板などの専門メーカー、エスカレーターのパーツ専門メーカーなどで、会場は大勢の人たちが話す声で活気にあふれます。毎年、平均2000人程度の業界関係者が参加するそうです。その中で目をひくものが3つありました。

1つめは、透明なアクリルの乗り場戸とかご戸にモーターなどの機器が取り付けられ、自動で開閉をくり返している展示です。戸と戸の係合(けいごう)の様子や、開閉のしくみが色々な角度から見られ、理解を助けてくれるすぐれものです。

2つめは空気圧でかごが動く、真空式エレベーターの展示です(写真2)。ピットと機械室がなくメンテナンスもほとんど必要ない、近未来的なエレベーターです。実際に乗ることができます。



写真2 エキスポ会場の真空式エレベーター (写真提供PVE合同会社)

3つめは機械室レスでシースルーのエレベーターが、その2日間のためだけに会場内に設置されているものです。もちろん実際に乗って昇降することができます。2階に上がると商談というよりもリラックスして歓談するスペースが設けられています。ドリンクとスナックも無

読者からの寄稿 <<ミスターEのアメリカエレベーター情報>>

料で提供してくれていました。びっくりするのは大きなクーラーボックスの中に、よく冷えたビールも入っていたことです。日本のビジネスシーンでは見かけない光景です。

参加者は最初に受け付けを済ませ、所属と名前（ニックネームもOK）を書いた名札を首から下げ、ブースを回って話をします。その後、カタログなどをいただくのですが、中にはあわせて粗品をくれるブースがあります。

それらはTシャツ、ナイロンまたは布製のバッグ、帽子、ペットボトルカバー、ボールペン、小型ライトなどです。これらのグッズ（写真3）は会社のロゴが入っているかっこいいデザインのものも多く、粗品の域をこえ魅力的なのです。



写真3 ズッズいろいろ

会場の入り口付近では、大きくて頑丈なビニール製の袋を配ってくれる親切な会社があります。グッズの誘惑に勝てない「エキスポ物欲病」におかされると、せっかくの情報を得る場でおのれを見失い、その袋がグッズ収集用と化します。そのウイルスは脳内に入り込んで欲望をあおり、さらには効率よくグッズをもらおうとする衝動に駆り立てます。症状はかなり強く、精神力で抑える以外、効く薬なしです。私は見てしまいました。このウイルスに勝てなかった参加者が、大きなビニール袋4つをいっぱいにして、嬉しそうに車のトランクに詰め込む

姿を。

4. 日本食でないと無理〜病

私の属する組織では、その組織独自の検査員資格を維持するため、最低3年に1度、講習を再受講することが求められます。講習の期間は2週間です。しかしその間、ハンバーガー、フライドチキン、ピザなどの食事だけで過ごすことは私には無理です。

アメリカにも日本食レストランはありますが、大きな都市に限られます。おまけに日本がデフレになっている間に、アメリカでの食事代はびっくりするほど高くなっています。昼食にラーメンとギョーザとビールを手配した旅行代理店の人が、「50ドル（約5500円）請求された」となげくくらいです。

「日本食でないと無理〜病」にかかっている私は、レトルトパックになったごはん、カレー、丼もの、味噌汁などを日本から持参します。それでも2週間のすべてをまかなうだけ持って行けません。着替えと日用品もスーツケースに詰めると、航空会社に預ける荷物の重量限度23Kg（エコノミークラスの場合）ぎりぎりになるからです。

持参した食料でまかなえない分は現地調達です。田舎でも中華料理はたいていの町にあり、日本食の代わりとしておすすめできます。中でもチャウメン（やきそば）などの麺類、チャーハン、肉料理は、いずれも肉がたっぷり入ってコストパフォーマンスが高いうえ、味ではずれを引くことがほとんどありません。

それ以外のメニューは多少冒険するつもりで注文した方がいいでしょう。以前マーボー豆腐を注文してみたことがあるのですが、出てきたものは赤くありませんでした。とろみのついた塩辛い透明な汁の中に、サイコロ状の固い豆腐が沈んだ白い料理でした。すべてたいらげることができなかったことを正直にご報告申し上げます。（つづく）